

# 令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人ぜんりょう学園 でんき幼稚園

## 1. 本園の教育目標

- ・健康で素直な明るい子ども
- ・自主自律の精神を養う
- ・礼儀正しい態度を身に付ける

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

### 1. 社会性の発達

- ・友達と協力し、思いやりを持って関わることができる。
- ・自分の気持ちや考えを言葉で表現し、他者とコミュニケーションをとることができる。

### 2. 自立心の育成

- ・日常生活の基本的なルールやマナーを守り、自分でできることを増やす。
- ・身の回りのこと（着替え、手洗い、片付けなど）を自分で行うことを習慣化する。

### 3. 感性や創造力の育成

- ・絵を描いたり、歌を歌ったり、体を使った表現を通して、感性を豊かにする。
- ・想像力を働かせて、遊びや活動に取り組む。

### 4. 体力の向上

- ・身体を動かす遊びや運動を通じて、体力や協調性を高める。
- ・さまざまな遊具や遊び道具を使って、体を使う楽しさを感じる。

### 5. 知識・思考力の向上

- ・基本的な数字や文字、色、形などに親しみ、興味を持つ。
- ・簡単な問題解決や創造的な遊びを通じて、思考力を育む。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価項目	評価	取り組み状況・結果
研修	A	北九州市私立幼稚園連盟主催の教師研修大会、小倉南私立幼稚園協会主催の教師研修大会に全教諭で参加。北九私幼連の分科会では主任、教諭が各々で選んだ課題の研修を受け、学びを深めることができた。また、小倉南私立幼稚園協会で行われた研修等にも各々希望するテーマの研修に参加し、年間を通して研修を受講する機会を得ることができた。
健康・安全面	B	新型コロナウイルスやインフルエンザ、アデノウイルスなど複数の感染症が同時に流行することがあり、欠席者の数が多い時期もあったが、年度中は学級閉鎖することなく過ごすことができた。普段からの感染症対策や保護者への早期の注意喚起を徹底して感染拡大の抑制に努めていきたい。
運営	D	未就園児を対象とした子育てサークルの参加者は実施内容の見直しを行い、芋ほり体験やクラス体験など園生活を実感できる内容を盛り込んだところ、各回とも昨年よりも多くの参加者が集まっていた。反面、少子化やより低年齢児からの早期通所の割合が増えた影響から、次年度の園児募集は例年に比べ大きく減少してしまった。

#### 4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価	理由
D	子育てサークルの参加者数は持ち直したものの、出生数の減少や通所の低年齢化などの影響もあり、園児募集ではさらに陰りが目立つ一年となった。次年度は改善させるために低年齢児の受け入れ体制の構築や園運営全体の見直しや改善を要する。

#### 5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
保護者との関わり	出欠の確認や預かり保育の利用確認、保護者への緊急連絡などの利便性を向上させ、教職員、保護者ともに負担軽減につながるようICTシステムの導入に取り組む。
運営	2歳児プレ保育の実施するなど、低年齢児の受け入れ体制を構築する。

#### 6. 学校関係者の評価

本年度の取り組み状況において、研修がA評価を獲得していることは、職員のスキル向上や園全体の学びの意識の高さを反映しており、大いに評価すべき点です。

一方で、健康・安全面がB評価であることから、一定の基準を満たしてはいるものの、さらなる改善の余地が見受けられます。特に、健康管理や安全対策のさらなる強化が重要な課題と考えられます。

運営面ではD評価と厳しい結果であり、園全体の体制や方針に大きな課題があることが明らかになりました。特に、出生数の減少や通所の低年齢化が影響し、園児募集が困難となった点が大きな要因の一つとされています。

これらの評価を踏まえ、以下の取り組みを重点的に進めていく必要があります

##### 1. 低年齢児の受け入れ体制の構築

現在の社会的ニーズに対応する体制を整備し、多様な家庭環境に対応可能な柔軟な園運営を目指すべきです。

##### 2. 運営全体の見直しと改善

長期的かつ持続可能な視点で、効率的で柔軟な運営体制の再構築を図ることが求められます。

##### 3. 保護者との関係構築の強化

保護者とのコミュニケーションの機会を増やし、その声を積極的に取り入れることで、園と家庭が一体となって子どもの成長を支える強固な関係性を築くことが期待されます。

以上の課題を、次年度に向けた成長の糧と捉え、具体的な行動計画を策定し、園全体の協力体制で改善を図ることが重要です。関係者一丸となってこれらの課題を乗り越えることで、未来への道筋を開いていきたいと考えます。

学校関係者評価委員 \_\_\_\_\_ 印

学校関係者評価委員 \_\_\_\_\_ 印

学校関係者評価委員 \_\_\_\_\_ 印

委員会実施日

令和7年3月24日